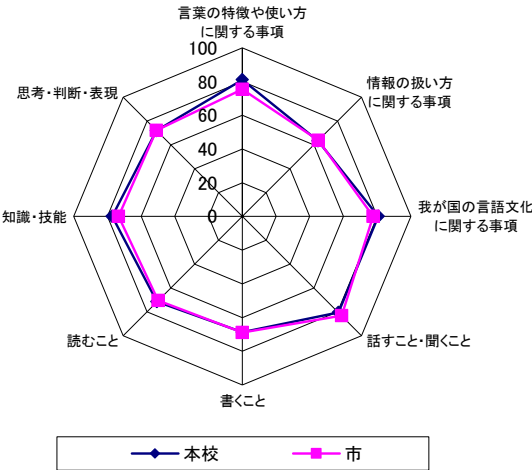


宇都宮市立上河内中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.0	75.4	68.3
	情報の扱い方に関する事項	63.4	63.9	58.0
	我が国の言語文化に関する事項	80.6	77.6	69.1
	話すこと・聞くこと	80.6	83.2	81.6
	書くこと	68.7	68.9	58.6
	読むこと	71.5	70.5	65.7
観点別	知識・技能	77.2	73.4	66.2
	思考・判断・表現	72.0	72.2	65.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

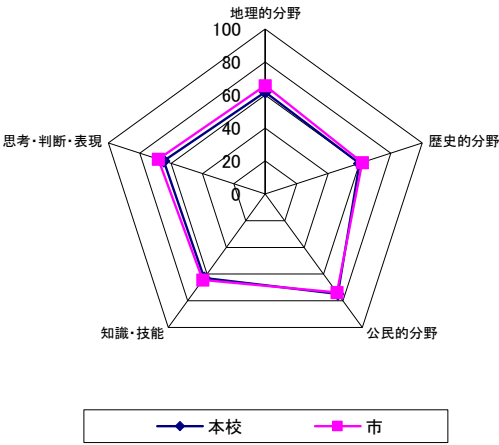
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○「小学校で学習した漢字を正しく書く」の設問の正答率は82.3%であり、市平均を5.2ポイント上回っている。漢字の書き取りをすることに良好な状況が見られる。 ●○「敬語について理解する」の設問の正答率は88.7%であり、市平均を3.2ポイント下回っている。敬語の種類や使い方の理解について課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・定期的な漢字テストの実施により、漢字力の定着を図る。 ・文法についての定期的な復習や、小テストを実施することで、文法への理解を定着させる。 ・国語ワークや漢字ドリル、タブレットなどを活用し、家庭での学習を通して理解を深めることを促す。 ・敬語の使い方などを会話を通して理解していく授業の展開をすることで、敬語への理解を定着させる。
情報の扱い方に関する事項	○「情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉える」の設問の正答率は85.5%であり、市平均を5.7ポイント上回っている。文章を論理的に捉えることに良好な状況が見られる。 ●「情報と情報との関係について理解し、文章全体を整える」の設問の正答率は33.9%であり、市平均を5.3ポイント下回っている。情報を読み取り、記述することについて課題が見られる。	・説明文の段落構成について、授業や家庭学習（ICTやeライブラリについても）をとおして理解を深め、定着させる。 ・ICT機器やクロームブックを効果的に活用していくことで、情報処理能力の向上を図る。 ・自身の考えを文章化するために、毎日のダイアリー提出や、新聞記事などから自身の考えを書く活動を通して文章力の向上を図る。
我が国の言語文化に関する事項	○「行書の特徴について理解する」の設問の正答率は79.0%であり、全市の平均を10.8ポイント上回っている。行書に関する知識・技能についての理解に良好な状況が見られる。 ●「歴史的仮名遣いについて理解する」の設問の正答率は69.4%であり、市平均を7.3ポイント下回っている。歴史的仮名遣いを理解することに課題が見られる。	・書写学習を通し、楷書や行書の特徴を理解できるように促す。 ・古文を図書館やICT機器で調べるなど、古典学習へ親しみをもてるように工夫する。 ・古文を定期的に読むことで、古語と現代語が関連し合っていることを理解させ、仮名遣いへの理解を深める。
話すこと・聞くこと	●「自分の考えを分かりやすいように表現を工夫する」の設問の正答率は64.5%であり、市平均を8.3ポイント下回っている。適切な表現を考え、工夫することに課題が見られる。	・聞き取りテストを行うことで、話を聞く力の向上を図る。 ・自身の考えを発表する場を増やし、自身の考えを言葉や言い方を工夫しながら他者に伝える機会を確保する。
書くこと	○「指定された長さで文章を書く」の設問の正答率は87.1%であり、市平均を3.9ポイント上回っている。文章を記述することに良好な状況が見られる。 ●「情報と情報との関係について理解し、文章全体を整える」の設問の正答率は33.9%であり、市平均を5.2ポイント下回っている。自身の考えを文章化し、整理することに課題が見られる。	・短文を作る授業などを設けることで、語句の意味を理解させ、文章作成力を養う。 ・文章を書く単元において自身の作品のみではなく、他者の作品に目を通すことで、工夫の仕方などを意識させ定着させる。 ・語句指定の文章や字数指定の文章などを書くことで、文章全体の構成を意識し、文章作成力を養う。
読むこと	○「情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉えている」の設問の正答率は85.5%であり、全市の平均を5.7ポイント上回っている。文章の展開に対する理解に良好な状況が見られる。 ○「物語の展開の仕方を捉える」の設問の正答率は87.1%であり、市平均を6.2ポイント上回っている。物語の展開を捉えることに良好な状況が見られる。	・読み物教材を読む際、グループワークなどを用いて登場人物と心情を整理することで、読解力を養う。 ・文章表現を理解するために様々な文章を紹介し、比べて読むことで、特徴を理解させる。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	61.8	65.7	56.7
	歴史的分野	60.1	61.7	54.8
	公民的分野	74.9	73.8	73.3
観点別	知識・技能	63.0	64.5	59.5
	思考・判断・表現	64.7	68.2	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

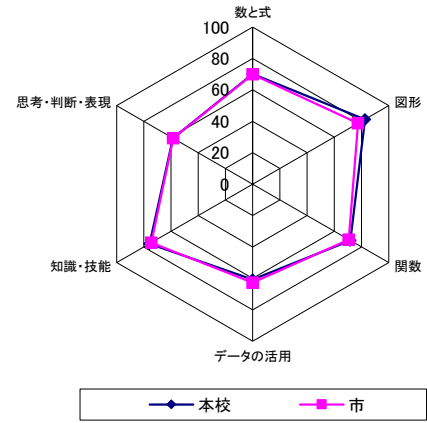
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○「日本の産業の特色について、複数の資料を読み取る」の設問の正答率は52.4%であり、市の平均を8.5ポイント上回っている。また、「日本の各地方の産業について、複数の資料をもとに考察し、表現する」の設問の正答率は61.9%であり、市の平均を5.4ポイント上回っている。 ●「日本の交通網の特色についての理解をもとに、資料を読み取る」の設問の正答率は36.5%であり、市の平均を15.0ポイント下回っている。	・授業において、写真や映像など視覚的に捉えることができるように一人一台端末を活用することで、着眼点を示すことで理解を深め、定着を図る。 ・グラフ、統計、地図など複数の資料から情報を読み取ったり、他の地域との相違点を考えたりする場面で、個人での取組に加え、グループ学習の時間を確保する。 ・地理的分野に関する専門用語を確実に習得させるために、一人一台端末によるドリル学習や用語確認テストなどを実施し、定着を図る。
歴史的分野	○「江戸幕府の仕組みについて」の設問の正答率は84.1%であり、市の平均を7.7ポイント上回っている。 ●「三都の繁栄や海運の発達についての理解をもとに、資料に着目して考察する」の設問の正答率は39.7%であり、市の平均を13.4ポイント下回っている。	・個々の史実、個々の人物としての捉え方で留まらず、時間の流れの中で捉えることのできるように、単元を貫く学習課題を設定することで理解を深め、定着を図る。 ・個々の史実について、「なぜ」「別の方法は」「自分が当事者だったら」と多面的・多角的に考えたり、発表し合ったりする場面を授業中や振り返り等で確保する。 ・歴史的分野に関する専門用語を確実に習得させるために、一人一台端末によるドリル学習や用語確認テストなどを活用し、定着を図る。
公民的分野	○「日本の高齢社会について、資料を読み取る」の設問の正答率は82.5%であり、市の平均を5.0ポイント上回っている。 ●「公共の福祉について、資料を参考にして、自分の言葉で表現する」の設問の正答率は47.6%であり、市の平均を12.2ポイント下回っている。	・授業の導入場面などで、テレビや新聞、インターネット上で取り上げられている時事問題を数多く扱い、公民的分野の学習に対する興味・関心を高めていく機会を確保する。 ・自分の考えを表現することを課題としているため、さまざまな課題に対して、自分の立場を明確にしたうえで考えさせ、他の意見と同じところや違うところを踏まえた話し合い活動に取り組ませる。 ・公民的分野に関する専門用語を確実に習得させるために、一人一台端末によるドリル学習を活用し、定着を図る。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	70.2	69.9	66.4
	図形	82.5	77.4	68.1
	関数	71.7	70.6	60.8
	データの活用	60.8	62.7	54.2
観点別	知識・技能	75.8	74.6	70.3
	思考・判断・表現	58.6	58.4	43.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

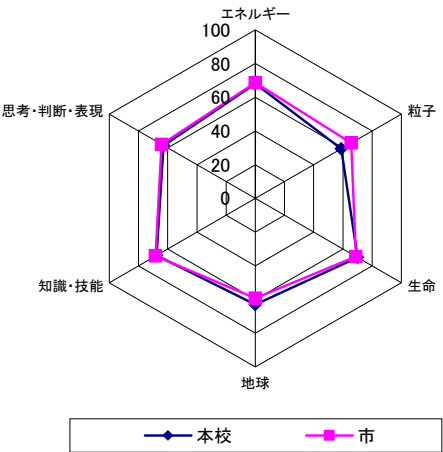
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○「根号を含む式の除法ができる」の設問の正答率は80.6%であり、市平均を5.5ポイント上回っている。また、「加減法で連立方程式を解くことができる」の設問の正答率は83.9%であり、市平均を5.1ポイント上回っている。基本的な計算や方程式を解くことに良好な状況が見られる。 ●「根号を含む式の減法ができる」の設問の正答率は41.9%であり、市平均を5.7ポイント下回っている。分数を含む計算に課題が見られる。	・知識・技能に関する小テストを、今後も継続して繰り返し取り組ませることで、基礎的基本的な計算を正確に解けるようにさせる。 ・計算や方程式において、分数や小数を含むものや式の変形が必要なものを意識的に取り入れ、計算方法を確認しながら取り組ませることで向上を図る。 ・よりよい計算方法を知るために、他の生徒と意見交換をする場面を確保する。
図形	○「線分の中点を、垂直二等分線を作図することによって作図することができる」の設問の正答率は80.6%であり、市平均を9.3ポイント上回っている。また、「直方体の直線の位置関係について理解している」の設問の正答率は88.7%であり、市平均を8.8ポイント上回っている。図形に関する基本的な知識・技能を用いて問題を考えることに良好な状況が見られる。 ●「おうぎ形の面積を求めることができる」の設問の正答率は67.7%であり、市平均を4.7ポイント下回っている。おうぎ形の面積を求めることに課題が見られる。	・単元において、用語、定義や定理、証明方法など、系統性を意識しながら指導にあたり、図形に関する思考・判断・表現力の向上を図る。 ・おうぎ形や円錐、円柱、球など、円が関係する図形の面積や表面積、体積などについて、適宜復習する時間を設け、定着させる。
関数	○「ある1次関数のx軸、y軸との交点からできる三角形について、面積を求めることができる」の設問の正答率は71.0%であり、市平均を10.6ポイント上回っている。また、「比例関係でのx、yの値の変化の関係について理解している」の設問の正答率は71.0%であり、市平均を6.3ポイント上回っている。グラフや表から、読み取り問題を考えることに良好な状況が見られる。 ●「比例の関係を読み取り、あるyの値におけるxの値を求めることができる」の設問の正答率は80.6%であり、市平均を3.2ポイント下回っている。グラフや式を関連付けて考えることに課題が見られる。	・既習事項を復習する時間を設け、それぞれの関数の特徴を理解したうえで、問題に取り組ませる。 ・表・式・グラフを関連させながら、それぞれのよさを生徒に気付かせ、適切な表し方を判断して、表現する機会を増やし、定着を図る。 ・関数の利用の学習では、基本的な学習内容をいくつか結び付けて考えることで、問題解決につながることに気付かせ、苦手意識がある生徒も前向きに学習に取り組めるように、学び合いができる時間を確保する。
データの活用	○●「6本のくじから1本をひくときの確率を求めることができる」の設問の正答率は87.1%であり、市平均を0.6ポイント上回っている。基本的な確率の問題を考えることに良好な状況が見られる。 ●「平均値がふくまれる階級の階級値を考えることができる」の設問の正答率は46.8%であり、市平均を8.6ポイント下回っている。度数分布表から平均値を求めることに課題が見られる。	・データの特徴を知るために、累積度数や相対度数、最頻値、平均値、箱ひげ図などを活用することの意味を感じられるようにするため、日常生活の場面を多く取り入れ、前向きに取り組ませる。 ・ヒストグラムや箱ひげ図、度数折れ線などから集団の特徴を捉え、数学的な表現を用いて説明する機会を増やし、向上を図る。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	68.1	68.7	63.6
	粒子	58.9	65.7	64.2
	生命	70.0	68.9	64.4
	地球	63.0	59.2	54.3
観点別	知識・技能	67.6	68.4	64.4
	思考・判断・表現	62.8	64.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

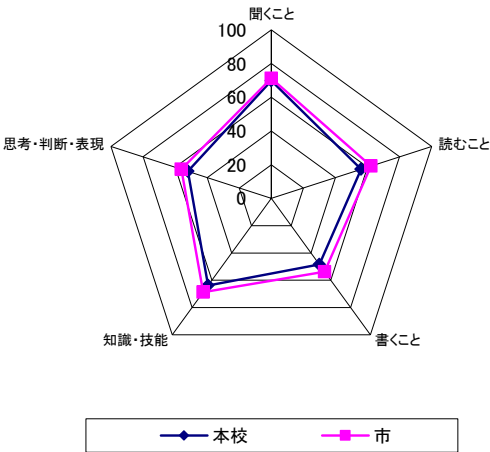
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○「磁力線のような推測」の設問の正答率は87.3%であり、市平均を15.0ポイント上回っている。知識をもとに結果を推測することに良好な状態が見られる。 ●「台車の平均の速さ」の設問の正答率は58.7%であり、市平均を3.4ポイント下回っている。実験結果から計算を行って求めることに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験の予想の時間を十分に取ることを継続し、知識をもとに推測する力の向上を図る。 ・実験結果のデータ整理の時間を十分にとり、結果から計算して求める活動を充実させる。
粒子	○「水素が生じたことを確かめる実験の構想」の設問の正答率は92.1%であり、市平均を2.0ポイント上回っている。目的のための実験操作を構想することに良好な状態が見られる。 ●「水を電気分解したときのようすの推測」の設問の正答率は25.4%であり、市平均を18.5ポイント下回っている。実験から結果を推測することに課題が見られる。	・実験方法を自分たちで考える活動を継続して行い、実験操作とその結果から分かることの関連性の理解の向上を図る。 ・実験の予想、考察の時間を確保し、どのような結果になるか、結果からどのようなことが分かるか考える活動を充実させる。
生命	○「無性生殖についての理解」の設問の正答率は82.5%であり、市平均を9.6ポイント上回っている。理科の用語への正しい理解に良好な状態が見られる。 ●「染色体数についての推測」の設問の正答率は41.3%であり、市平均を6.6ポイント下回っている。生殖細胞と染色体数の関係性の理解に課題が見られる。	・用語の説明を十分に行い、正しい知識を得ることができる指導を継続する。 ・学習内容の関連性を説明し、家庭学習を通して理解を深め、定着させる。
地球	○「花こう岩がとれる場所の推測」の設問の正答率は63.5%であり、市平均を4.6ポイント上回っている。知識を活用して予想を立てることに良好な状態が見られる。 ●「前線の断面のようすの理解」の設問の正答率は33.3%であり、市平均を7.9ポイント下回っている。用語と図の関連性の理解に課題が見られる。	・用語と用語のつながりを意識した授業を今後も実施し、知識と知識を結び付けて推測する問題に取り組ませる。 ・ICTを活用し、用語と図やイメージの結び付きの定着を図る。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	69.8	71.2	65.4
	読むこと	56.0	62.1	56.9
	書くこと	48.4	53.8	42.5
観点別	知識・技能	63.9	68.8	64.7
	思考・判断・表現	52.0	56.1	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○「英文を聞き、その内容を理解している。(動物の説明)」の設問の正答率は79.0%であり、市平均を3.7ポイント上回っている。物に関する説明を聞き、それが何を表すかを理解することに良好な状況がみられる。 ●「日常的な話題について聞き、概要を捉えている。」の設問の正答率は48.4%であり、市の平均を12.1ポイント下回っている。道筋を立てて内容を理解するプロセスに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・スモールトークを通じて、様々なトピックに慣れ、表現力を高める指導を繰り返す。 ・教師のエピソードトークをメモを取りながら聞く練習を行う。 ・ナチュラルスピードの文が聞き取れるように、聞き取りの回数を増やし、リテンション能力を高める。
読むこと	○「メールを読み、代名詞itの内容を理解している。」の設問の正答率は82.3%であり、市の平均を2.5ポイント上回っている。文脈を読み取り、内容に応じた選択肢を選ぶ練習の成果が出ている。 ●「メールを読み、その概要を捉えて英文を完成させている。」の設問の正答率は22.6%であり、市の平均を5.1ポイント下回っている。文脈に沿って英文を考えることに課題が見られる。	・語彙力をつけるとともに、必要な情報を探しながら読むスキミング能力を身に付ける活動を行う。 ・文脈を追うことに慣れさせる。その文脈上で統語の知識を深めるために、パターンプラクティスを増やす。
書くこと	○「文の語順を理解し、正確に書いている。(SV00の文)」の設問の正答率は82.3%であり、市平均を2.8ポイント上回っている。タブレットPCで語順を選択させる練習の成果が出ている。 ●「スマートフォンの使用に対する考えや意見を、相手に伝わるように書いている。」の正答率は38.7%であり、市の平均を1.8ポイント下回っている。テーマ別に自分の意見を論理立てて考えるプロセスに課題がある。	・書くことに慣れるため、テーマに沿った英文を書く指導を定期的に設け、フィードバックして語彙力等を増やす。 ・教科書の内容を利用し、まとまった文章を書く時の作文の型となるよう、教科書の文章を改めて示したり、別の文章を比較させたりするなどして、書くトレーニングに生かす。

宇都宮市立上河内中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
表現力を高め、自分の考えを伝え合う授業	「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)」の実現に向け、思考力を深めるために、各教科で共通して「書く時間」を重視した授業を展開する。	・「表現」に関わる問題において、国語の「書く力」は正答率68.7%で市平均よりも0.2ポイント、英語の「書く力」は正答率48.4%で市平均よりも5.4ポイント下回った。理科や社会では自分の考えを記述する設問の正答率が市の平均を上回っているものもある。解答の状況からは、自分の考えを書く際に、内容の具体性が足りなかったり、根拠が適切に記されていないかったりする状況が窺える。
	基礎的・基本的内容の定着を図る。AIDリルや振り返り活動の充実を図る。	・「授業で習ったことを、その日のうちに復習している。」の回答では肯定割合は、1年生が63.1%、2年生が41.9%、3年生が50.8%で、市平均を1年生は22.8ポイント、2年生は7.6ポイント、3年生は、9.6ポイント上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国語の「書くこと」についての正答率は68.7%であり、市平均を0.2ポイント下回っている。一方で、2年生の県の調査においては、正答率70.8%であり、市の平均を10.4ポイント上回っている。作文指導や「短文を書く」指導は、地域学校園での重点目標になっていることもあり、特に力を入れて指導している単元である。本校では「表現力を高め、自分の考えを伝え合う授業づくり」を研究テーマとしており、引き続きこれらを指導していくとともに、各教科でも「振り返り」の場面において、考えの変容やこれまでの学習との関連等を自分の言葉でノートに書かせる活動を充実させていき、生徒一人一人が自分の表現力を高め、自分の意見を伝え合い考えを深め合うことができるよう授業を工夫していきたい。

・「テストで間違えた問題は、もう一度やり直している。」の回答では、肯定割合は1年生が81.0%、2年生が74.3%、3年生が81.0%で、市の平均を1年生は10.5ポイント、2年生は6.5ポイント、3年生は7.9ポイント上回った。学級担任や各教科担任が家庭学習の適切な取組内容について繰り返し指導してきた結果と言える。一方で、平日の学習時間が30分以下の生徒が、1年生で28.3%、2年生で31.0%と、それぞれ学年全体の約3割程度おり、課題を残したと言える。次年度は家庭学習の内容の充実を図るとともに、学習時間の確保についても指導していきたい。